

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2020

54

May

CONTENTS

- みんなで伸ばそうIF、学会重要告知..... 1面
- 日本胸部外科女性医師の会、JATS Academy..... 2面
- 第2回理事会ニュース、サマースクール2020告知 3面
- 第73回学術集会情報+ごあいさつ、第74回日本食道学会集会、告知、編集後記 4面

みんなで伸ばそう！
インパクトファクター！

GTCS 編集委員長 志水 秀行

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は
日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会の Official Journal、日本心臓血管外科学会の Affiliated Journal です



平素より General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) には多大なご厚情を賜っております。このたび、第15代目のEditor-in-chiefを拝命いたしましたので、宜しくお願い申し上げます。

GTCSはご承知の通り、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会の Official Journal、日本心臓血管外科学会の Affiliated Journal であり、本邦胸部外科学の学術誌として中心的役割を担っています。そのルーツは古く、1953年（日本胸部外科学会創立から5年後）に創刊された「日本胸部外科学会雑誌」に遡ります。その後、英文誌 JTCSV (Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery) (1998～2006) を経て、2007年にGTCSという雑誌名になりましたが、巻号は継承されており、現在発行中のGTCSはvolume 68となっています。

近年は「みんなでとろう！インパクトファクター」を合言葉に、学会全体がOne teamでIF獲得を目指してきました。昨年6月にIF (2018年) 1.219を獲得した快挙は、プロジェクトを牽引された大北 裕先生（前理事長・前編集委員長）の卓越したリーダーシップと、論文作成や査読な

どにおいて多大なる尽力された多くの先生方の努力の結晶といえます。

IF取得という大きな目標を達成した今、GTCSの国際性や注目度は一段高まりました。しかし、私たちは現状に満足するのではなく、GTCSの価値、果たすべき役割を一層高めたいと願っています。

GTCSにとって最も大切なことは、読者の方々に有用な質の高い論文を数多く掲載することです。先生方の高い研究成果を是非ともGTCSに投稿し、世界に発信してください。優秀論文に対してはGTCS優秀論文賞が贈られます。review articleも積極的にご投稿、あるいは依頼があればご応諾をお願いします。適宜、特別企画も行いますので、希望するテーマなどに関し、皆様のご意見をお寄せください。

私たちは、IFを高める努力を続けます。IFは雑誌を評価する指標の一つではありますが、簡明で広く浸透しているために、高いIFを有する雑誌に世界中から優れた論文が集まる現実があります。IFのさらなる向上のためには、引用頻度の高いoriginal article、reviewを増やし、case reportを絞るという従来の編集方針を一層加速する必要があり、これを

実現するための具体的方策に関し、幅広く検討・議論を進めています。

先生方が英文誌に論文投稿される際には、これまで同様、過去2年間にGTCSに掲載された論文（2020年に英文誌に掲載される予定であれば2018年、2019年のGTCS論文）の積極的な引用をお願いします。心臓、呼吸器、食道各領域の分野別の2018-2019年論文リスト、本学会学術委員会の学術調査報告書（Annual report）がGTCSホームページに掲載されていますので、是非これをご活用下さい。なお、GTCSに掲載される論文においても過去2年分のGTCS論文の引用が有効になりました。ただし、あまり多くのGTCS論文を引用するとself-quotation checkに抵触するのでご注意ください。

編集側においては、査読が雑誌の

質を高める上で最も重要なプロセスです。非常に手間がかかり、かつ、短期間で進めなければならない大変な作業ですが、多くの論文の中から質の高い論文を選別し、適切な査読意見によって論文の質をさらに高めることはGTCSにとって命綱ともいえます。査読は、胸部外科学を牽引されている先生方をお願いしておりますので、日常業務でも多忙を極められている中、大変なご負担をお掛けしていることを承知しておりますが、査読の重要性をご理解いただき、是非とも迅速な対応をお願い申し上げます。

以上、お願いばかりとなりましたが、GTCSのさらなる発展のために、胸部外科3領域すべての皆様のご協力、ご指導をこれからも宜しくお願い申し上げます。



志水 秀行
所属：慶應義塾大学 外科（心臓血管）
経歴：
1986年 慶應義塾大学卒業
1990年 慶應義塾大学大学院（医学研究科）卒業
以後、都立小児病院、平塚市民病院、慶應義塾大学に勤務
留学歴：University of Alabama at Birmingham (USA)
趣味：旅行、スキー、映画鑑賞
好きな言葉：努力は天命さえも変える

重要告知 2020年一般社団法人化に伴う変更点

本年4月1日に一般社団法人への登記を行い、会員の一般社団法人への移行は本年8月1日（2021年度事業開始日）を予定している。

1. 正会員を専門医会員と読み替え（定款第5条）

今回は読み替えるだけにとどめ、現状の正会員は専門医資格を更新できなくても会員である限り、専門医会員となる。

2. 評議員会を社員総会に変更（定款第11条）

現状の一般会員による総会ではなく、現状の評議員会を社員総会に変更した。評議員を社員としたため、評議員数を増加した。
今秋の学術集会での評議員会（社員総会）は、別会場に映像で放映予定である。

3. 監事の任期（定款第27条）

監事の任期は一期2年、再任1回までとした。

4. 会費の種類（施行細則第13条）

地方会と本会の一体化事業が2020年8月1日から開始となる。（会費値上げ2000円承認済）

5. 評議員選出に関する件（定款施行細則第7章）

評議員が社員となるため、選挙評議員の定数を大幅に増員、と同時に推薦評議員の定数も増員し、女性専門医会員数に応じた女性評議員を置くこととした。
現在、実施されている評議員選挙は一般社団法人の定款及び施行細則に則った選挙で実施することが昨年の評議員会及び総会で承認されている。現在、選出されている評議員の任期は2020年7月31日までで、今回新たに選出される評議員の任期は2020年8月1日から2年間となる。



特定非営利活動法人日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery

<http://www.jpats.org/>

日本胸部外科女性医師の会

(Woman in Thoracic Surgery: WTS in Japan)

第14回日本胸部外科女性医師の会 開催報告

京都府立医科大学付属病院 心臓血管外科 山崎祥子

第14回WTS in Japanは第72回定期学術集會会期中に、＜日本を飛び出しトレーニング！～アメリカでの臨床留学編～＞をテーマに2人の先生：Mayo Clinic胸部外科教授のShanda H. Blackmon先生とBaylor College of Medicine心臓血管外科教授のOurania Preventza先生にご講



演を頂きました。座長を獨協医科大学の前田寿美子先生と横浜市立大学附属市民総合医療センターの根本寛子先生がつとめてくださり、合計22名の先生方にご参加いただきました。

Blackmon先生のご講演は、実際の症例数やメンバー紹介、レジデントの教育システムなどMayo Clinicの紹介から始まり、ご自身のキャリアをどう重ねていったかをお話しされました。アメリカ胸部外科を牽引する施設というのをひしひしと感じさせ



る内容の中に、ご講演を聞いている私たちを励ますようなコメントを交えておられ、非常に興味深い内容でした。

Preventza先生は、ギリシャのUniversity of Athensで医学部を卒業したのちにアメリカでUSMLEを取得し、アメリカでトレーニングをされたという経歴の先生で、現在勤務されているBaylorのトレーニングシステムの紹介や、Preventza先生のように外国から来た先生のトレーニングコースについて紹介されました。ギリシャからアメリカへ来て、留学で終わらずそのままアメリカで心臓血管外科医としてキャリアアップしていくというの

は女性ならずとも大変だっただろうと思いますが、”登る山は高いほうがいい”という前向きなコメントが印象的でした。ご講演の最後にはAATSにあるJATSのfellowshipプログラムについても紹介していただきました。お二人のご講演後にはオーディエンスの若手医師から実践的な質問もあり、大変有意義な会だったと思います。

末筆になりますが、開催に際してご開催いただきました日本医師会と日本胸部外科学会に感謝申し上げます。活動内容はホームページ<http://wts-japan.org/>でご覧ください。

若手・中堅胸部外科医の皆さんへ



JATS Academy 2018.10 OPEN!



手術ビデオ提供者からのメッセージ Vol.4

種本 和雄 (川崎医科大学 心臓血管外科)

今どきのトレーニングの強みを活かせ!

心臓血管手術は年々複雑化し、対象年齢を含めて重症化が進んでいる。私が大学を卒業した頃の教科書にはCABGの禁忌として60歳以上が挙げられていたことから、その変化の大きさは想像に難くない。また当時はASD手術や、no riskの人工心肺使用心停止下1枝CABGあたりを最初の頃にやらせてもらうことが一般的で、それから徐々に経験を重ねてきた。しかし、現在ではASDはデバイスによる欠損閉鎖がほとんどの症例に行われ、CABGも多枝バイパス手術それもOff Pumpといったような症例ばかりで、我々が駆け出しの頃にやらせてもらっていたような症例はほぼ皆無である。それだけ外科トレーニングを取り巻く環境が厳しくなる一方で、ビデオやネット配信、Off the job trainingなど効果的な教育ツールに簡単にアクセスできる時代になっている。これは今の専攻医の大きな強みであるので、しっかり活用して頂きたい。MICS、自己弁温存基部置換術など魅力的な術式が次々と登場し、若い人はそちらに目を奪われがちだが、まずは通常の手術、それから人工弁感染、血栓弁、生体弁不全などの救命手術が安定して出来るようになることが何より重要であろう。

一方、このようなeasy access情報だけでなく、教科書から得られる系統的に整理された情報、他院の手術室を訪れて経験する手術見学など、従来型の修練法も全く色褪せてはいないので、併せて大切にしていきたい。

若い人たちが臨床現場で困った時に我々の提供したビデオ内容を思い出してもらえたら望外の幸せである。

胸部外科学会トップページ

会員ページ ※ログインが必要です

JATS Academy



JATS Research Project Award

先程、第3回選考が終了いたしました。今回も横断的な臨床研究を対象としたJATS award for transitional clinical research (100万円1件)、および若手の臨床・基礎研究を対象としたJATS award for young investigators (50万円3件)に対し、実に多くのご応募をいただきました。会員のみなさまの関心の高さをひしひしと感じております。表彰は秋の第73回定期学術集會を予定しており、同学術集會では第1回受賞者による初の発表もごさいます。また、当研究助成は多くの企業様(別表)のご理解の上に成り立っております。ご支援いただきました企業様に厚く御礼申し上げます。

(研究・教育委員会 委員長 荻野 均)

JATS Research Project Award (日本胸部外科学会研究助成) 第2回 寄付金支援企業一覧(支援額次いで振込順・敬称略)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 泉工医科工業株式会社 | 7 川澄化学工業株式会社 |
| 2 テルモ株式会社 | 8 日本メトロニック株式会社 |
| 3 日本ライフライン株式会社 | 9 西村器械株式会社 |
| 4 エドワーズライフサイエンス株式会社 | 10 株式会社ジェイ・シー・ティ |
| 5 平和物産株式会社 | 11 センチュリーメディカル株式会社 |
| 6 日本ゴア株式会社 | 12 日本ビー・エックス・アイ株式会社 |
| | 13 タクト医療株式会社 |

1. 各種委員会委員の件

委員会委員追加及び変更が報告され、承認された。また、委員会名を広報 (Homepage・Internet) 委員会とは広報委員会、チーム医療推進、働き方改革実現委員会 (仮称) は胸部外科医労働環境委員会に変更する。

2. 各種委員会報告及び審議事項

(1) 理事会・総合将来計画委員会

1月8日に開催された総合将来計画委員会の議事録に沿って報告・審議が行われた。

1) 第75回学術集会運営会社のコンベ

3社によるプレゼンテーションが行われ、2社を残し、本年10月の運営内容を確認し、最終結論とすることが報告された。会場は東京フォーラムとパシフィコ横浜に絞るが、費用の面からパシフィコ横浜を有力とする。

2) GTCS、Case Reportの扱い

IFを取得したがCase Reportの掲載待ちが多く問題となっており、検討したことが報告された。この件は引き続き、会誌編集委員会及び総合将来計画委員会での審議事項とする。

3) News letterの紙媒体出版の件

年間作成 (送料等) を含めて800万円の経費削減について、紙媒体出版廃止に伴う削減案が提案された。検討の結果、NLの紙媒体の発行を廃止し、HP掲載とHTMLメール配信 (月1回程度) に完全移行する案が採用された。

4) 海外学会・団体との対応

国際委員会での議論となるが、国際化とは何かを検討する必要がある。対象はアジアなのか、欧米に対して日本の技術を発信することなのか、学術集会の中での有様にも影響してくる。様々な国とMOUを結ぼうとしている中で、最終的にはどこに向くのか、委員会で議論して理事会に提出する。

5) 外科医のためのTAVIワークショップの3学会共催における提案書

若手のトレーニングや教育コースを今後3分野で何をしていくか議論していかねばならない。まずは、TAVIを実施することが承認された。この件は研究・教育委員会委員長とWG長とで相談する。

6) 一般社団法人化

本会全事業・関連団体事業の扱い、収益事業をどのようにするか行政書士とタイムスケジュールを確認しながら進める。

7) 財務

WGを立ち上げ、経費削減策を検討する。

8) 次回審議予定

学術集会の件 (3分野会長と会場)、事務局移転、チーム医療・働き方改革、地方会、若手組織体制等を検討する。

(2) 専門医制度委員会

厚生労働省にサブスペ領域の在り方に関するワーキンググループ (医政局長の諮問) が設置され、サブスペの検討が進むことが予想される。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

心臓血管外科専門医認定機構 (案) 及び日本専門医機構理事長との面談が報告された。

面談内容は、研修修練の呼称提案、必要症例数を偏らないようなキャップ制、研修期間の最長は10年未満を想定、試験結果は日本専門医機構が認定、連動研修オーバーラップは2年認める、施設群の認定を開始することは可、海外での研修は半分まで認めるなどが報告された。

(3) 選挙管理委員会

今年の評議員選挙は選挙評議員400名、推薦評議員30名の430名を選出することを確認した。

(4) 推薦評議員候補者選考委員会

女性評議員の選出について、意見交換がなされた。

理事会ニュース

日本胸部外科学会 第2回理事会 2020年1月23日 (木) 13:00 ~ 17:00

(5) 会誌編集委員会

新規投稿状況 (Original Article, Case Report) が増加傾向にあり、Acceptまでの日数も長くなっていることが報告された。

(6) 学術委員会

Annual Report 2017はGTCS誌に投稿し、シュプリング確認作業中、Annual Report 2018心臓分野は2月に解析結果が出る予定、Annual Report 2019の進捗状況報告があった。集めているデータを世界に発信すべくプレゼンを行うためにどういうデータを出すべきか、以前は5年間のVolumeとResultとの関係をプレスリリースしていたが、今後行うべきとの提案があった。3分野とも研究成果をGTCS誌に掲載できるようにしたい。立て付けを湊谷、荻野、岡田守人理事で相談する。

(7) 学術集会委員会

学術集会のあり方 (完全分野会長制を見据えた) を総合将来計画委員会と一緒に検討していく。数年の分野会長制の成果を見て、会場の在り方は2025年を目標に検討する。

1) 第73回日本胸部外科学会定期学術集会

審議・確認事項として各委員会に依頼する企画として特別企画「労働環境」は吉野理事、「チーム医療」は新浪理事、「専門医制度」は池田理事、「男女共同セッション」は吉野理事、トラベルグラントは国際委員会 (5万×20人) が確認された。

UMINシステム倫理的手続きは第120回の日本外科学会を参考に、チェックリストにチェックいただき審査はせずに、今回は個人申告のみとする。

演題募集期間は3月4日から5月8日までとし、カテゴリーの内容が確認され、承認された。

日程としては10月28日開催の評議員会を別の会場に映像で流すこと、また医療安全講習会に参加できない方向けに会期中にビデオをもう1度流すことが承認された。帰朝報告の日程については、国際委員会と相談の上、決定する。

11月1日はMitral Conclaveを実施する。参加登録費が提案され、承認された。

(8) 財務委員会

WGを立ち上げ、経費削減策を検討する。

(9) 倫理・安全管理委員会

施設及び公的団体からの外部委員派遣依頼は2件の対応、心臓血管外科ライブ手術ガイドライン部分改訂2020 (案) が報告された。

(10) 診療問題委員会

本年4月保険点数改訂に向けた活動として、「技術・新設項目」として左心耳閉鎖術、拡大胸腺摘出術 (重症筋無力症に対する)・ロボット手術、「技術・改正項目」として「経カテーテル大動脈弁置換術、手術通則14 (同一手術野における複数手術の加算) の改正算定要件の拡大 (施設基準) が採択される見込みであることが報告された。

(11) 研究・教育委員会

JATS Research Project Awardの申請者から応募総数の問い合わせがあり、開示してよいかとの審議事項が提出され、開示してもよとの結論となった。

第3回JATS Research Project Awardの応募については、委員会にて選出 (臨床研究1題、若手研究助成3題) を行い、次回理事会にて

最終決定、2019年のサマースクール開催報告を3月10日発行のニュースレターに掲載予定であることが報告された。臨床研究は3年後、若手は2年後の学術集会時に発表することになっており、今秋は第1回目の発表会となるが、GTCS誌に掲載することも考えられる。

(12) 総務・渉外委員会

興行中止の保険を再検討、事務局移転3学会協議会WGで事務局のあり方及び分担金について検討予定である。

(13) 臓器移植委員会

肺移植のためのガイドブック再改定版作成予定のため、出版費用を日本呼吸器学会と本会との折半 (150万円~200万円程度) の提案がなされた。方針としては承認予定である。

(14) 胸部外科医労働環境委員会

女性評議員活躍の場の確保についてアンケート行う予定であり、確氷会長からのセッションの企画を検討して回答する。

1) ICU術後管理パッケージ化

特定看護師を短期間で作るためのパッケージをということで昨年8月に3学会 (本会、心臓血管外科、血管外科) からの委員による委員会を開催し、ICU案胸部外科学会案は395時間を作成した。集中治療学会で確認いただき、それをmodifiedした新案330時間 (3学会たたき台) が提出され、これを厚労省が集中治療学会に打診している状態である。時間的な制約から対応は確氷理事一任となった。

(15) 国際委員会

委員会を開催し、2020年JATS フェローシップ及びJATS/AATS Foundation Fellowship選考結果、一度受賞を辞退した方の留学先の再調整を実施、帰朝報告の日程は確氷会長と相談、トラベルグラントAwardは1人5万円×20人=100万円などが報告された。今後、国際化のあり方についても検討する。2019年度フェローシップ決算で次年度繰越金が780万円あるが、趣意書は寄付金の利用範囲を広げており、広く国際交流に使用する方向で、今後検討する。

(16) 地方会のあり方委員会

レジデントフォーラムの名称について、持ち回り審議において選出された上位2位の

中から、挙手により、JATS Case Presentation Awardsに決定した。既に地方会においては、演題募集が締め切られているところもあるので、何らかの対応をする。地方会のお知らせを会員に一斉メールをする。

(17) J-MACS委員会

12月20日委員会議事録、Statistical Report GTCS誌に掲載となったことが報告された。

(18) 一般社団法人化委員会

行政書士から、今後のスケジュール (4月1日設立登記、8月1日会員移行) 及び事業の振り分け (事業区分例) について説明がなされた。

1) 今後のスケジュール予定

一般社団法人を4月1日に設立登記、設立時役員は理事・監事、設立時代表理事は理事長とし、会長は学術集会事業に専念するため、オブザーバーとなり登記上は記載しない。全会員が8月1日に一般社団法人の会員となり、評議員会は社員総会となる。

NPO法人は7月31日に解散ではなく、財産管理上、2023年6月まで存続する。2023年3月の理事会をNPO法人の解散総会とする。2020年8月1日以降、NPO法人の総会 (決算) は役員だけで成立し承認される。

学術集会は2022年までの3年間は一般社団法人とNPO法人の共催という形をとる。

2020年10月28日、一般社団法人とNPO法人の理事会同時開催、NPO法人は会員が役員のためのため、理事会と総会を兼ねる。同日開催されるNPO法人の評議員会が一般社団法人社員総会となり、一般会員は議決権がないため、別室にて社員総会の映像を提供し、オブザーバーとして参加していただく。

2) 事業の振り分け、事業区分

2021年度会費 (2020年8月1日以降) は一般社団法人で徴収する。学術研究・他学会関連事業は一般社団法人、これ以外はNPO法人の事業とし、地方会の助成金はNPO法人から寄付金として支出する予定である。

3. その他

1) 日本医学会医学用語委員会報告

ICD-10が2022年に移行。14章から17章へ、免疫、睡眠障害、生保健康関連病態が追加となる予定であることが報告された。

2) 3学会合同呼吸療法認定士認定委員会の活動報告ならびに委員会運営費負担

2019年の活動報告書ならびに2019年委員会運営費負担の連絡があり、運営費10万円を支払うことが承認された。

3) スtentグラフト実施基準管理委員会運営協力金負担

令和元年度運営協力金10,000円の依頼があり、承認された。

4) 補助人工心臓治療関連学会協議会

2019年9月に開催及び2020年1月に開催された委員会議事録が報告された。

呼吸器外科サマースクール 肺の手術にトライしてみよう

こちらは本年も開催いたします!

(2020年3月31日現在 予定)

2020

7/11 (土)・12 (日)

【会場】

神戸医療機器開発センター (MEDDEC)
ニチイ学館ポートアイランドセンター

参加申込など詳細は日本呼吸器外科学会、当会のHPをご覧ください

心臓血管外科サマースクール

2020

8/22 (土)・23 (日)

【会場】

テルモメディカル

開催中止

「心臓血管外科サマースクール」は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応で、心臓血管外科に関する学会の延期が相次ぎ日程的に開催困難なため中止となりました

Future Prospectives

第73回日本胸部外科学会定期学術集会ごあいさつ

碓氷 章彦 第73回日本胸部外科学会定期学術集会 会長



第73回定期学術集会を2020年10月28日(水)から31日(土)に名古屋国際会議場において開催いたします。3分野会長制を初めて行う学定期術集会です。私は統括会長として、兵庫医科大学呼吸器外科 長谷川誠紀先生が呼吸器外科分野会長、徳島大学胸部・内分泌・腫瘍外科 丹黒章先生が食道外科分野会長として、運営に当たります。皆様がご自身の学術集会として十分に活躍頂ける運営を目指します。

定期学術集会テーマは「Future Prospectives」です。胸部外科領域は技術進歩が著しく、治療法は多様化が進んでいます。これに伴う成績評価、手術適応の再考などが必要となっています。10年後の2030年を想定した議論を目指しています。

11月1日(日)にはAATS/JATS Mitral Conclave開催します。David Adams先生と東京医科歯科大学の荒井裕国先生がmoderatorとして会の運営を行います。

2020年は「本会と地方会の一体化事業」が始まる年となります。地方会と本会の一体化を定期学術集会でも行うために「JATS Case Presentation Awards」を企画します。地方会が予選、本会が本選の形式となります。サブスペシャリティ専門医取得前の先生は是非挑戦してください。

生は是非挑戦してください。

10月下旬にはコロナウィルス禍も落ち着くと思います。多くの会員の先生が参加し、議論が盛り上がることを期待しています。是非、名古屋にお越しください。

会期：2020年10月28日(水)～31日(土)
※11月1日(日) AATS/JATS Mitral Conclave

会場：名古屋国際会議場
〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

会長：碓氷 章彦 (名古屋大学大学院医学系研究科 心臓外科学)

分野会長(呼吸器)：長谷川 誠紀 (兵庫医科大学 呼吸器外科)

分野会長(食道)：丹黒 章 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

URL：https://jats-meeting.org/

プログラム

ホームページにて、主要プログラムの企画概要を掲載中です

Postgraduate Course (予定)

心臓血管外科 Basicコース：10月28日(水)
心臓血管外科 Advancedコース：10月31日(土)
呼吸器外科コース：10月31日(土)
食道外科コース：10月31日(土)

プログラムスケジュール

10月28日(水) 前日：医療安全講習会、評議員会、JATS Case Presentation Awards (心臓分野)、Postgraduate Course (心臓血管外科Basic)、全員懇親会
10月29日(木) 1日目：理事長講演、分

野会長講演(呼吸器)

10月30日(金) 2日目：会長講演、分野会長講演(食道)、特別講演

10月31日(土) 3日目：Postgraduate Course (心臓血管外科Advanced、呼吸器外科、食道外科)

11月1日(日)：AATS/JATS Mitral Conclave

主催事務局：

名古屋大学大学院医学系研究科 心臓外科学
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
Tel：052-744-2376

学術集会事務局：

一般社団法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-27
テラル後楽ビル 1F
E-mail：jats-gakkai@umin.ac.jp

邂逅そして創造 Encounter and Creation

第74回日本食道学会学術集会開催にあたって

丹黒 章 第74回日本食道学会学術集会会長／徳島大学大学院医歯薬学研究部教授

第74回日本食道学会学術集会を2020年(令和2年)6月11日(木)・12日(金)の両日、徳島市のあわぎんホールおよびJRホテルクレメント徳島を会場に開催させていただきます。今年はオリンピックイヤー、7月24日から9月6日にかけて東京オリンピック・パラリンピックが開催されます(3月24日に1年延期が決定)。日本でのオリンピック開催は2回目で、前回の1964(昭和39)年に開催された東京オリンピック

(第18回大会)から55年を経た開催になります。前回開催のオリンピックの翌1965(昭和40)年10月19・20日、第18回日本胸部外科学会定期学術集会が徳島の地で開催されました。教室の初代教授、故高橋喜久夫先生が会長をされましたが、病に倒られ7月に他界されたため、故田北周平第一外科教授が代行されましたが、この会期中に、日本食道学会の前身である第1回食道疾患研究会学術集会が徳島の眉山ホテルで開催されました。食道疾患研究会は2002年の第56回学術集会でその役割を終え、2003年の第57回から食道学会へと移行しました。今年が食道疾患研究会発足から数えて

55周年となります。この半世紀に日本の食道学は飛躍的に進歩し、食道疾患の診療と研究において世界をリードして参りました。歴史ある本学術集会をその発祥の地である徳島で開催する機会をお与えいただいたことは大変光栄であり、実りある会を催して重責に応えたいと思います。学術集会のテーマは「邂逅そして創造」とさせていただきます。人との出会い、モノや出来事との出会いが新たな発見と創造を育んできました。学術集会ポスターには、旅立つ丹頂鶴とお遍路さんの後ろ姿を描きました。旅の行く手には様々な出会い、新たな発見が待っていることでしょう。阿波徳島は四国八十八ヶ所遍路がスタートする「発心の道場」と呼ばれ、「修行」、「菩提」を経て、悟りの境地「涅槃」へ至り、結願できるといわれています。学術集会では、食道学会誕生55周年に因んで、新たな発見を生んだ人や物との邂逅、それにより派生したア



イデアや新技術とその伝承に関する特別企画「邂逅と創造」やシンポジウム、パネルディスカッション、一般口演、ポスターセッション、教育セミナー、10月開催の第73回日本胸部外科学会学術集会との連携企画など様々な企画を準備しております。学術集会で熱い議論を戦わせた後は、徳島の自然と、街のあちこちの川岸で、夕暮れ時に始まる、阿波踊り前の練習風景、お接待文化をお楽しみください。日本胸部外科学会会員の皆様の参加をお待ちしています。



丹黒 章
所属：徳島大学大学院 医歯薬学研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科分野教授
経歴：
1981年 徳島大学卒業後郷里の山口大学第二外科入局
1986年 助手
1989年～1991年 米国アーカンソー大学留学
1996年 講師
1998年 山口大学助教授
2004年 徳島大学教授
2011～2015年 医学科長
2012～2016年 徳島大学病院副病院長
2017～2019年 徳島大学医学部長 現在に至る
趣味：乗馬
好きな言葉：恕

編集後記

新型コロナウイルス感染症が現時点で収束する気配を見せず、落ち着かずまた心配な日々をお過ごしのことと思います。病院によって患者さんを多く受け入れている施設とそうでない施設があり、また地域により様々とは思いますが、この危機に際して胸部外科医ができることは、限られた医療資源の中でいかに自らの患者に対応し、その緊急性に応じて医療を提供していくかであり、今後ますます厳しくなる状況の中で一日一日の判断が求められていくことになるでしょう。会員の皆様におかれましては、自らとご家族の健康に十分留意し、この危機において各々の役割を無事に果たされることを祈念してやみません。

一日も早いこの事態の収束を願ってやみませんが、その後の我々の働き方に今回の事態は大きな影響を与えざるを得ないでしょう。各国での医療体制、危機対応に大きな差があり、それぞれの国での被害の多寡に影響しているとの報道がありますが、将来的に様々な検証が行われるでしょう。その中でわが国でも進められてきた効率重視での入院ベッドの削減や施設集約化といった改革がどの程度見直されるのか、緊急時の医療体制についてどのように整理していくのか、注意深く議論を見守っていく必要があります。

今回で紙媒体でのニュースレターは最後になります。今後はメール配信となりますが一層内容を充実してお届けできるよう広報委員会でも議論を進めていきたいと思っています。ご期待いただきたいと思います。

広報委員会委員長 松宮 護郎

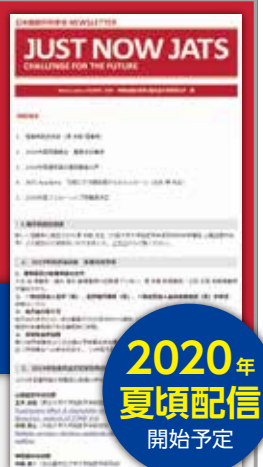
日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS が

メールマガジンとして
リニューアルします！

学術集会、GTCS、専門医情報など掲載予定！
学会情報をいち早くお届けいたします。お楽しみに！

※リニューアルに伴い、今号No.54(2020年5月号)をもって紙媒体での発行を終了いたします。



2020年
夏頃配信
開始予定

日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.54
2020年5月10日発行

発行 ● 特定非営利活動法人 日本胸部外科学会

〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F

TEL ● 03-3812-4253 FAX ● 03-3816-4560

URL ● http://www.jpats.org/

編集 ● 日本胸部外科学会 広報委員会

E-mail ● jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作 ● 株式会社 杏林舎